KIORITZ

共立背負式枝打機

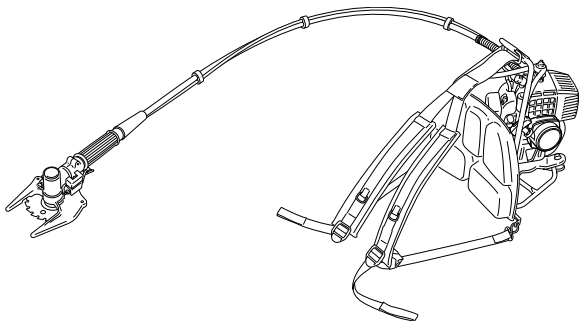
RMEK260Aシリーズ iスタート

取 扱 説 明 書

型　式

RMEK260A/4

RMEK260A/5



見出し	ページ
重要なお知らせ	2
⚠ 安全にご使用いただくために	3～8
1．梱包部品一覧	9
2．各部の名称と機能	10
3．作業前の準備	11～13
4．エンジンの運転	14～15
5．基本的な作業方法	16
6．点検・整備	17～23
7．仕様	24
8．補用品と消耗品	25
索　引	26

（社）日本陸用内燃機関協会
小形汎用エンジン
排出ガス自主規制適合証

⚠ 警　告

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

重要なお知らせ

製品をご使用になる前に、取扱説明書を必ずお読みください。

●製品の使用目的

・この製品は２サイクルエンジン付背負式枝打機です。直径４．５ｃｍ以下の枝打に使用してください。目的以外に使用してはいけません。

●製品の使用者について

・この製品は取扱説明書をよく読んで充分に熟知した人が使用してください。

・取扱説明書をよく読んでいない人、風邪や疲労など体調のよくない人、１６歳未満の人は製品を使用しないでください。

●取扱説明書について

・本書には、製品の組立や操作、整備に必要な事項が書かれています。よく読んで理解してください。

・本書はいつでも読めるように必ず保管してください。

・本書が損傷により読めなくなったり、紛失した場合は、販売店から新しく取扱説明書を購入してください。

・単位はＳＩ単位（国際単位系）を使用しています。（　）内は参考値ですので若干の換算誤差がある場合もあります。

●製品の貸与、譲渡

・本書で解説している製品を貸与する場合、借りて作業をする人に、この取扱説明書とともに製品を貸与してください。製品を譲渡される場合は、本書を製品に添付してお渡しください。

●保証書

・この製品には保証書が同梱されています。

・使用目的以外の作業による製品の故障、あるいは改造による故障の場合は、保証の対象外になりますのでご注意ください。

・詳しくは保証書をお読みください。

●お問い合わせ先

・この製品についての内容や消耗品のご購入、修理などのご用命はお買い求めいただいた販売店にお問い合わせください。

●おことわり

・本書の内容は、製品の改良のため予告なしに変更することがあります。また、使用している図は説明をわかりやすくするため、現品と異なる場合があります。

・本製品は一部部品の組立作業が必要となります。

・ご不明なことやお気付きのことがございましたら販売店にご相談ください。

●製品の特徴

・ この製品はエンジン始動時に*iスタート*方式を採用していますので、スタータグリップを引いたときに大変軽く引くことができます。

目　　次

⚠安全にご使用いただくために 3
■警告表示 3
■その他の表示 3
■シンボルマーク 3
■警告表示ラベル 3
■一般的なご注意 4
■燃料およびエンジン取扱い上のご注意 5
■製品取扱い上のご注意 7
１．梱包部品一覧 9
２．各部の名称と機能 10
３．作業前の準備 11
3-1　組立 11
3-2　燃料の準備 12
４．エンジンの運転 14
4-1　エンジンの始動 14
4-2　エンジンの停止 15
５．基本的な作業方法 16
６．点検・整備 17
6-1　点検・整備の目安 17
6-2　点検・整備要領 17
6-3　キャブレタの調整 21
6-4　故障診断表 22
6-5　長期保管（３０日以上）..... 23
７．仕様 24
８．補用品と消耗品 25
索　引 26

⚠ 安全にご使用いただくために

製品をご使用になる前に、この章を必ずお読みください。

■警告表示

本書や製品では作業者などが人身事故を負う危険性のある事柄を、下記の警告表示で示しています。
安全作業のためによく読んで、必ず守ってください。

⚠ 危　険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。

⚠ 警　告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。

⚠ 注　意

その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。

■その他の表示

本書では警告表示以外に下記の表示を使って説明しています。

丸に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表わします。

重　要

重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている製品の使用、点検、保守、保管に関する重要な注意事項です。

■シンボルマーク

本書と製品ではシンボルマークを使って説明しています。各シンボルマークの意味を充分に理解してください。

シンボルマーク	シンボルマークの意味	シンボルマーク	シンボルマークの意味
	ご使用前に取扱説明書を読み、正しく作業すること。		電気ショックに注意すること。
	作業中は、保護具を必ず着用すること。		高温部に注意すること。
	製品を通気の悪い場所では使用しないこと。		手の切断に注意すること。
	火災に注意すること。		

■警告表示ラベル

- 本書で解説されている製品には、下図の「警告表示」のラベルが貼ってあります。ご使用前にラベルの意味を理解してください。
- ラベルが摩滅したり破損して内容が確認できなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店から新しくラベルを購入し、１０ページに指示してある箇所に貼り、常にラベルが確認できる状態を維持してください。



部品番号：890157-55630

⚠ 安全にご使用いただくために

・ここに記載されている「注意事項」は、安全に関する重要な項目です。必ず守ってください。
・本文の中にも重要な「注意事項」を記載していますので、必ずお読みください。
☆印に続く文章は、「注意事項」を守らないと起こり得る結果を示しています。

■一般的なご注意

⚠ 警　告

●取扱説明書

- **ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。**

☆事故や重傷を負う原因となります。



●製品の使用目的以外の使用禁止

- **製品を取扱説明書に記載されている使用目的以外の用途に使用してはいけません。**

☆事故や重傷を負う原因となります。

●製品の使用者

次の項目に該当する人は製品を使用しないでください。

- **疲労している人**
- **酒を飲んでいる人**
- **薬物を服用している人**
- **妊娠している人**
- **体調不良の人**
- **取扱説明書を読んでいない人**
- **１６歳未満の人**

☆事故の原因となります。



●製品の改造禁止

- **製品を改造してはいけません。**

☆事故や重傷を負う原因となります。
機械の改造が原因で故障した場合は、メーカー保証の対象外となります。

●点検・整備をしていない製品の使用禁止

- **点検・整備をしていない製品を使用してはいけません。定期的な点検・整備を必ず行なってください。**

☆事故や重傷を負う原因となります。

●製品の貸与、譲渡

- **製品を貸すときは借りる人に、取扱説明書と共に製品を貸してください。**
- **製品を譲る場合は取扱説明書を添付して製品を渡してください。**

☆事故や重傷を負う原因となります。

●製品の使用環境・作業環境

次のような場合は製品を使用しないでください。

- **降雨時や落雷の恐れがあるとき**
- **急傾斜地や足元が不安定で滑りやすい場所**
- **夜間や視界が悪い場所**

☆転倒や滑落、誤った操作などにより重傷を負う原因となります。

●健康管理

- **健康管理のために、休憩を取りながら余裕を持って作業してください。**
- **厚生労働省の通達は次のとおりです。**
  １日の使用時間：２時間以内
  １回の連続作業時間：３０分以内
  １回の連続作業後の休止時間：５分以上

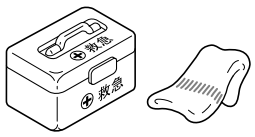
☆健康障害を受ける恐れがあります。

●ケガへの備え

万一の事故やケガへの準備をしてください。

- **救急箱（応急手当用）**
- **タオルやてぬぐい（止血用）**
- **呼子や携帯電話（外部との連絡用）**

☆緊急の応急手当や外部への連絡ができず、症状が悪化する恐れがあります。





⚠ 安全にご使用いただくために

■燃料およびエンジン取扱い上のご注意

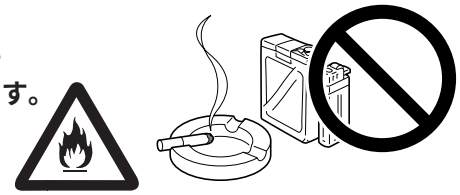
⚠ 危　険

●燃料給油時は火気厳禁

燃料は非常に引火しやすいので、取扱いを誤ると火災の危険があります。次の項目を必ず守ってください。

- **燃料給油中にタバコを吸ったり、火花を近づけない**
- **エンジンが熱いときやエンジン運転中は、燃料補給をしない**

☆燃料に引火して火災を起こしたり、火傷を負うことになります。



⚠ 警　告

●静電気は火災の原因

ガソリンは容器内部で揺られると、静電気を帯びやすい性質を持っています。給油時の放電による火災を防ぐため、次の項目を守ってください。

- **運搬に用いた鋼板製のガソリン携行缶は、地面に置いて静電気を逃がす。**
- **ポリミックス（別売品）で燃料を混合した後は、数分間静置して静電気のレベルを下げる。**
- **作業者は、給油前に手のひらを地面や金属などに押し当てて、自身の静電気を逃がす。**
- **製品は、充分に冷えた状態になるまで地面に置き、静電気のレベルを下げる。**
- **燃料給油時に、金属製の漏斗（ろうと）を使用しない。**
- **湿度の低いときは、燃料容器や製品の燃料タンクを乾いた布で拭かない。**

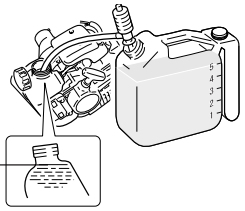
☆静電気が燃料に放電して、火災の原因となります。

●こぼれた燃料は火災の原因

燃料給油時は、次の項目を守ってください。

- **燃料は燃料タンクの口元まで入れずに、規定レベル以下に補給**
- **燃料を入れすぎてあふれたり、こぼれた場合はこぼれた燃料を拭き取る**
- **燃料を給油した後は燃料タンクキャップを確実に締付ける**

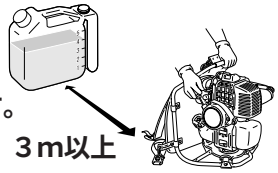
☆こぼれた燃料に引火して火災や火傷の原因となります。



●燃料補給地でのエンジン始動禁止

- **燃料を補給した場所でエンジンを始動してはいけません。エンジンを始動する前に、燃料を補給した場所から３m以上移動してください。**

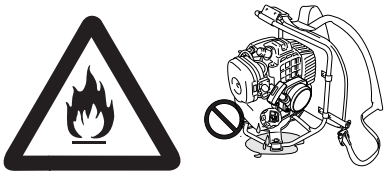
☆燃料補給時の
漏れた燃料に引火し
火災の原因となります。



●燃料漏れは火災の原因

- **燃料補給後に、必ず燃料パイプ、燃料系グロメット、燃料タンクキャップ周辺から燃料の漏れやにじみがないかを確認してください。**
- **燃料の漏れ、にじみがある場合は直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。**

☆燃料漏れがあった場合、火災の原因となります。



●ポリ容器での燃料運搬・保管は禁止

燃料はできるだけ使い切ってください。燃料を運搬あるいは保管する場合は、次の項目を守ってください。

- **鋼板製のガソリン携行缶で運搬・保管**
- **保管期間は１ヶ月程度**
- **ポリ容器やペットボトルに燃料を入れて運搬・保管することは禁止**

☆ポリ容器での運搬や保管は
法律で禁止されており、
火災の原因となります。

⚠ 安全にご使用いただくために

■燃料およびエンジン取扱い上のご注意

⚠ 警　告

●エンジン始動時

エンジンを始動するときは、特に次の項目を守ってください。

- **製品を平坦で通気の良い、可燃物のない場所に置く**
- **燃料が漏れていないか確認**

☆火災の原因になります。

- **ボルトやナット類にゆるみがないことを確認**
- **エンジン単体での始動禁止**
- **鋸刃のヒビや破損。異常の場合は使用禁止**
- **周囲は広くとり、人や動物を近づけない**
- **鋸刃が地面や障害物と接触していないこと**
- **スロットルレバーは低速位置で始動**
- **製品を地面にしっかりと押え始動操作**
- **空中での始動、背負ったままでの始動は禁止**

☆始動前の注意を怠ると、事故や重傷を負う原因となります。

●始動後は異常振動・異常音の確認

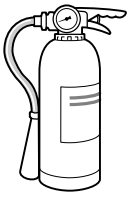
- **エンジンを始動したら、異常振動･異常音が発生していないか確認してください。**
  異常振動･異常音がある場合は製品を使用してはいけません。販売店に修理を依頼してください。

☆部品の脱落、飛散などの事故により、重傷を負う原因となります。

●発火・発煙には、まず安全確保

- **エンジンから発火または排気口以外から発煙したら、まず身体から製品を離し、身体の安全を確保してください。周囲に類焼しないようにシャベルで砂などをかけるか、または消火器で消火してください。**

☆あわてて対処しようとすると、火災やその他の傷害の拡大につながります。





●レイノー現象の症状に注意

- **指に不快感、赤み、腫れがあり、白くなったり感覚がなくなったことのある方は、製品を使用する前に医師に相談してください。**

☆指にレイノー現象と呼ばれる症状が現れることがあります。



●排気ガスは有毒

- **エンジンの排気ガスには、有毒なガスが含まれています。**
- **屋内やビニールハウスなど通気の悪い場所で製品を運転しないでください。**

☆排気ガスによる中毒事故の原因となります。




●点検・整備時はエンジン停止

作業後に製品の点検・整備を行なう場合は次の項目を守ってください。

- **エンジンを停止し、エンジンが冷えてから点検・整備**

☆火傷を負う原因となります。

- **スパークプラグキャップを外して点検・整備**

☆突然の始動により事故を起こすことがあります。

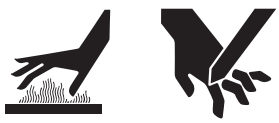


●移動時はエンジン停止

次のような移動時はエンジンを停止し、鋸刃の停止を確認後、鋸刃ロックレバーで鋸刃をロックしてマフラを身体から離してください。

- **作業場へ移動するとき**
- **作業中に他の場所へ移動するとき**
- **作業場から帰るとき**

☆火傷や重傷を負う原因となります。



⚠ 安全にご使用いただくために

■製品取扱い上のご注意

⚠ 警　告

●低速運転で鋸刃が動く製品は使用禁止

- **スロットルレバーが低速位置で運転しているときに、鋸刃が動く状態のまま製品を使用してはいけません。**

☆事故や重傷を負う原因となります。



●鋸刃が停止してからロックする

- **鋸刃回転中は鋸刃ロックレバーを操作しないでください。**

☆鋸刃が損傷して、傷害を負う原因となります。

●鋸刃の絡みつきはエンジンを停止して

- **鋸刃部に切屑などが詰まったときは、必ずエンジンを停止して鋸刃ロックレバーで鋸刃をロックしてから、除去してください。鋸刃をロックせずに鋸刃に手を近づけてはいけません。**

☆鋸刃が急に動き出し、傷害を負う原因となります。

●半径１５mの範囲は危険区域

製品を中心に半径１５mの範囲は危険区域です。作業中は次の項目を必ず守ってください。

- **作業中の危険区域への他の人や子供、ペットなどの立入り禁止**
- **作業中、危険区域に他の人が入った場合の、エンジンの停止と、鋸刃の停止**
- **作業者に近づく場合は、危険区域の外から小枝を投げるなどの合図をして作業者に知らせ、エンジンの停止と、鋸刃の停止を確認**
- **二人以上で作業する場合は、お互いに合図のしかたを決めて１５m以上離れて作業**

☆鋸刃との接触により、重傷事故を起こす原因となります。

●リコイルスタータの分解禁止

- **リコイルスタータには強力なスプリングが組み込まれていますので、分解してはいけません。**

☆スプリングがはじけて事故や重傷を負う原因となります。

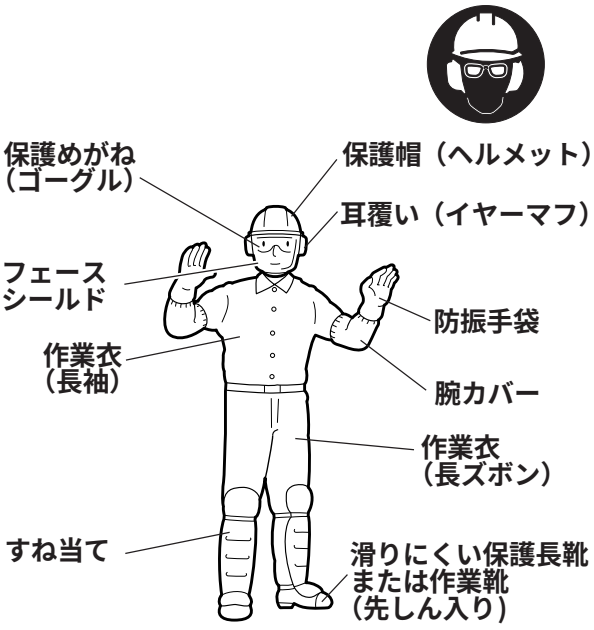
⚠ 警　告

●保護具の着用

作業を行なう場合は、必ず下記の保護具を着用してください。

- **保護帽(ヘルメット)：**頭部の保護
- **耳覆い(イヤーマフ）や耳栓：**聴力の保護
- **保護めがね(ゴーグル)：**目の保護
- **フェースシールド：**顔の保護
- **防振手袋：**寒さや振動から手を保護
- **身体に合った作業衣(長袖･長ズボン):**身体の保護
- **滑りにくい丈夫な保護長靴(先しん入り）や滑りにくい作業靴(先しん入り)：**足の保護
- **すね当て：**脚の保護

☆視覚障害、聴覚障害、重傷などを負う原因となります。



必要に応じて下記の保護具をご使用ください。

- **防じんマスク：**呼吸器の保護
- **防蜂網：**蜂の襲来対策

⚠ 安全にご使用いただくために

■製品取扱い上のご注意

⚠ 警　告

●異常時は直ちにエンジン停止

次のような場合は、直ちにエンジンを停止し、鋸刃の停止を確認後、各部を点検してください。破損した部品は交換します。

- **作業中に鋸刃が金属、石などの障害物に当たった場合。**

☆損傷した製品をそのまま使用すると、事故や重傷を負う原因となります。

- **製品が突然に異常な振動をした場合。**

☆突然の振動は、フライホイール、クラッチ、鋸刃などの故障や、ネジのゆるみなどが原因です。そのまま使用すると、事故や重傷を負う原因となりますので、お買い求めの販売店に点検と修理を依頼してください。

●製品を置くときは鋸刃の停止を確認

エンジンを停止したときは、製品を地面に置く前に鋸刃が停止したことを確認後、鋸刃ロックレバーで鋸刃をロックしてしてください。

☆鋸刃が惰性で動き、傷害を負う原因となります。





●マフラのゴミは取除く

エンジンのマフラ周辺に覆い被さった草や葉、小枝などは、エンジンを停止し、高温部に注意して取除いてください。

☆火災の原因となります。



●無理な姿勢で使用しない

- **手を一杯に伸ばしての作業やフレキシブルシャフトが極端に曲がるような姿勢での作業は行なわないでください。**

☆フレキシブルシャフト元部が小さい曲がりとなって発熱し 事故や重傷を負う原因となります。



●運転中は高温部、高電圧部に接触禁止

製品の運転中および停止後しばらくの間は、次の高温部や高電圧部に触らないでください。

- **マフラ、スパークプラグ、ギヤケースなどの高温部**

☆高温部に触れると火傷します。

- **スパークプラグ、プラグコードなどの高電圧部**

☆運転中に高電圧部に触れると感電します。



●スパークプラグの点検

スパークプラグの点検では次の項目を守ってください。

- **電極やターミナルの摩耗、ガイシに亀裂がある場合は新品と交換**
- **スパークプラグの火花を確認する発火テストは販売店に依頼**
- **シリンダのプラグ孔付近での発火テストは禁止**
- **燃料がこぼれたり、燃えやすいガスがある場所での発火テストは禁止**
- **スパークプラグの金属部に触れることは禁止**

☆引火による火災および感電事故の原因となります。



●燃料を入れたまま車での移動は禁止

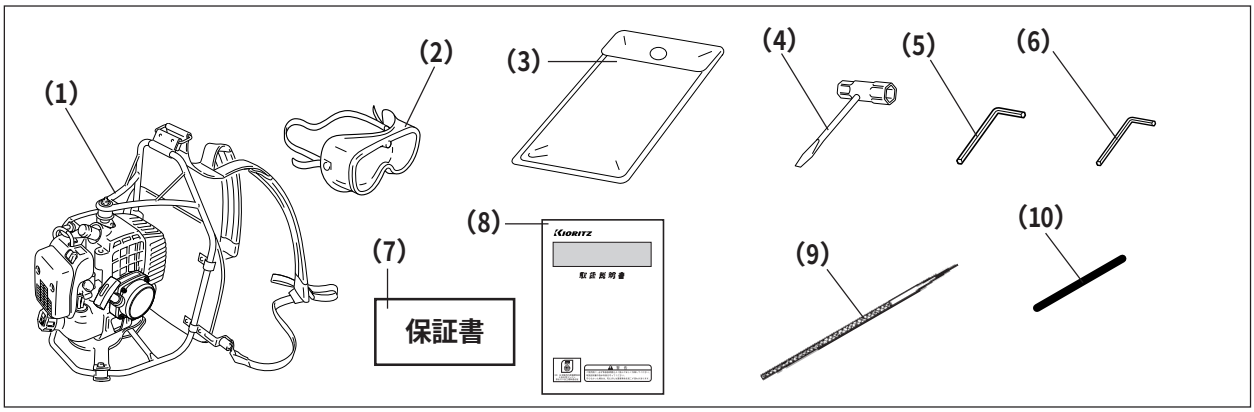
- **作業中や作業後に場所を移動する場合は、必ずエンジンを停止し、鋸刃をロックしてください。**
- **車で運搬する場合は燃料タンクをカラにして、鋸刃をロックして、製品が動かないようにしっかり固定してください。**

☆燃料を入れたまま車で移動すると、火災の原因となります。

１．梱包部品一覧

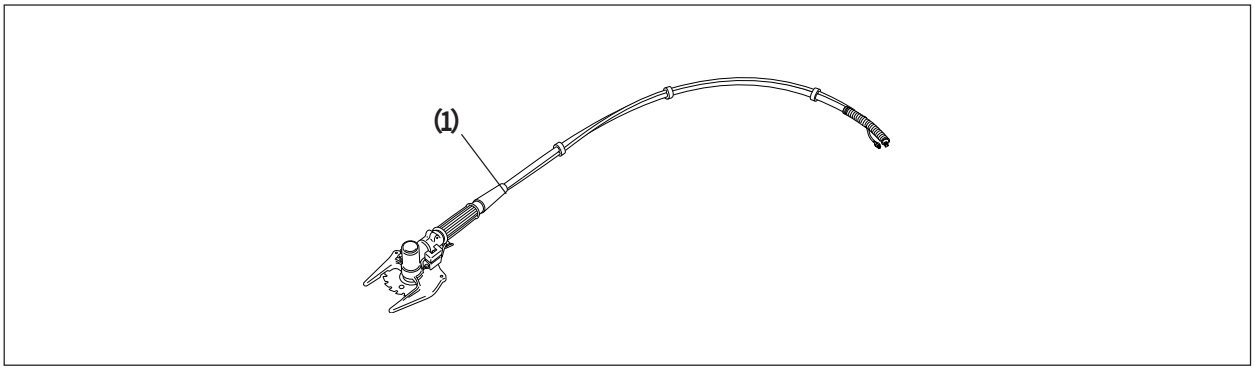
・梱包箱の中には、下記部品が分かれて梱包されています。
・梱包箱を解きましたら、中の部品を確認してください。
・欠品や破損などがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

エンジン側



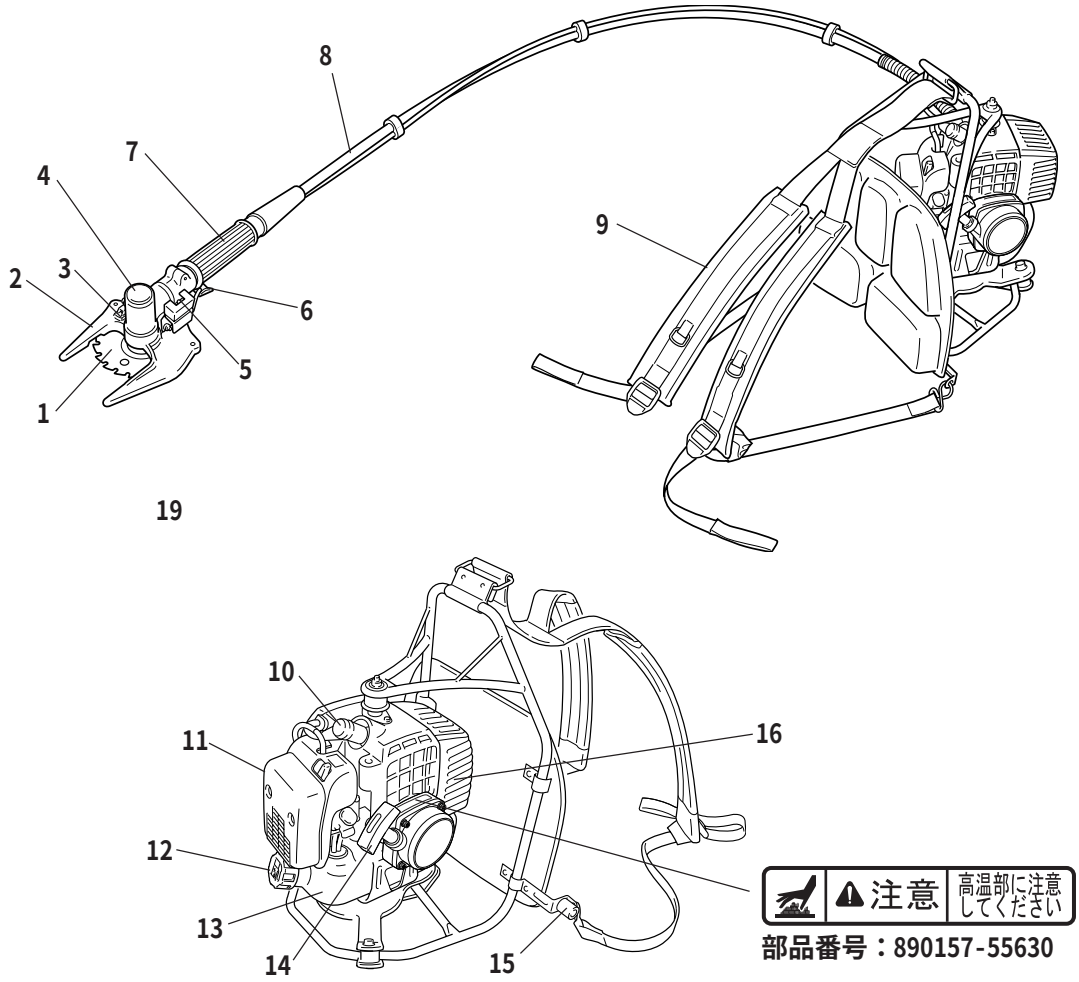
番　号	部　品　名　称	個　数	番　号	部　品　名　称	個　数
(1)	エンジン	1	(6)	六角レンチ（3㎜）	1
(2)	保護めがね（ANSI Z87.1 適合）	1	(7)	保証書	1
(3)	工具袋	1	(8)	取扱説明書	1
(4)	ソケットレンチ（１３×１９）	1	(9)	丸ヤスリ	2
(5)	六角レンチ（4㎜）	1	(10)	ヤスリ用グリップ	1

鋸刃ユニット側



番　号	部　品　名　称	個　数
(1)	鋸刃ユニット	1組

２．各部の名称と機能



部品番号：890157-55630

１．鋸刃　― 枝の剪定切断に使用する鋸刃です。
２．飛散防護カバー　― 鋸屑が作業者の顔などに飛散するのを防ぐためのカバーです。
３．鋸刃ロックレバー　― 作業の中断や移動のとき、鋸刃をロックするためのものです。
４．ギヤケース　― 動力を鋸刃に伝達すると同時に、鋸刃の組付部ともなります。
５．ストップスイッチ　― エンジンを停止させるときのスイッチです。
手前に倒すとエンジンは停止します。放すと戻ります。
６．スロットルレバー　― エンジンの回転数を調節するためのレバーです。
７．グリップ　― 枝の切断、剪定のときに握ります。
８．フレキシブルカバー　― フレキシブルシャフトが入っています。
９．背負バンド　― 製品を背負うバンドで長さを調節して使用できます。
１０．スパークプラグ　― エンジンの頭部に組付けられ､シリンダ内の混合気に点火するものです。
１１．エアクリーナ　― エンジンに供給される空気をきれいにします。
１２．燃料タンクキャップ　― 燃料タンクのふたです。
１３．燃料タンク　― 燃料を入れる容器です。
１４．スタータグリップ　― エンジンを始動するときに使用します。
１５．緊急離脱ボタン　― 背負部のフレーム右下にあるボタンで､押すと右の背負バンドが外れます。
１６．マフラカバー　― 消音器（マフラ）をカバーし、熱いマフラに触れるのを防ぎます。

３．作業前の準備

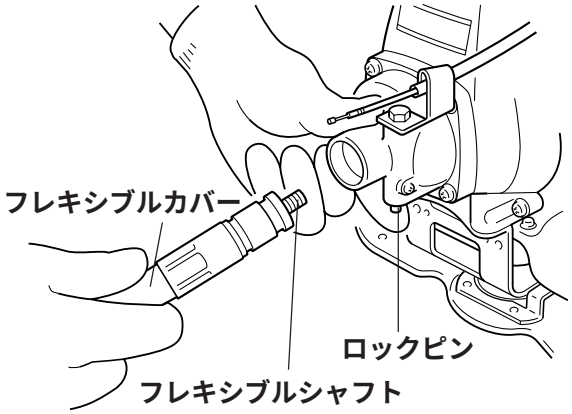
３-１　組立

⚠ 警　告

取扱説明書をよく読んで、正しく組立ててください。
☆誤って組立てた製品を使用すると、事故や重傷を負う原因となります。

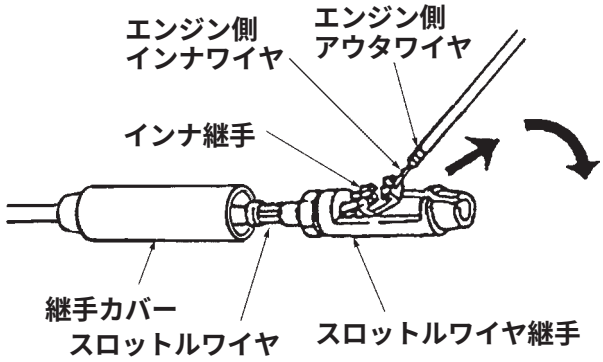


■ フレキシブルシャフトとエンジンの接続



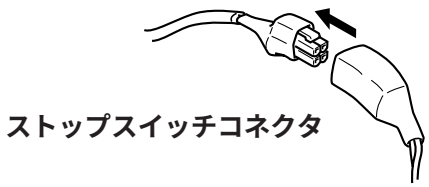
1. ロックピンを一杯まで押してください。
2. フレキシブルシャフトをクラッチケース内の駆動軸の角形状に合わせて差し込んでください。事前に、フレキシブルシャフトをフレキシブルカバーから４０mm程出しておくと接続が簡単です。
3. フレキシブルカバーをクラッチケースに突き当たるまで差し込んでください。
4. ロックピンから手を離し、フレキシブルカバーを引っ張り、抜けないことを確認してください。

■ スロットルワイヤの接続



1. 継手カバーを引き、スロットルワイヤ継手を引き出してください。
2. エンジン側インナワイヤ端子をインナ継手に引っ掛けてアウタワイヤを引っ張り、スロットルワイヤ継手にはめ込んでください。
3. スロットルレバーを動かしてワイヤが正常に動くことを確認してから、スロットルワイヤ継手カバーをかぶせてください。スロットルレバーのアイドリング位置で、インナワイヤに２mm程度の遊びが必要です。

■ ストップスイッチの接続



ストップスイッチのコネクタを接続してください。

３．作業前の準備

３-２　燃料の準備

⚠ 危　険

燃料は非常に引火しやすいので、取扱いを誤ると火災の危険があります。
本書の「安全にご使用いただくために」（５～６ページ）記載の「注意事項」をよく読み、必ず守ってください。
☆燃料に引火して、火傷や火災を起こすことになります。



⚠ 警　告

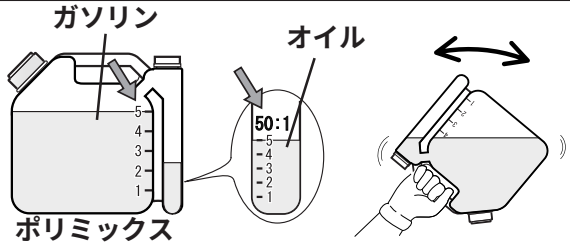
- **燃料を補給する際は手動式の燃料補給ポンプを使用し、機体が安定した状態で給油口からこぼさないように注意して補給してください。（電池式の灯油ポンプは使用しないでください）**
  製品に燃料が少しでもこぼれたら、必ず拭き取ってください。
- **燃料を補給する際は静電気の火花放電を避けるため、補給前に製品および補給用タンクを地面に数分間置くなどして、帯電している静電気をアースしてください。**
  また、作業者自身も手のひらを地面や金属に接するなどしてアースしてください。
- **燃料を補給した後は燃料タンクキャップを確実に締付け、必ず燃料パイプ、燃料系グロメット、燃料タンクキャップ周辺から燃料の漏れ、にじみがないことを確認してください。燃料の漏れ、にじみがある場合は直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。**

☆燃料に引火して、火傷や火災を起こす原因となります。

重　要

混合燃料は劣化しやすいので、使用する分量だけ混合してください。 燃料の混合は、製品の燃料タンクで行なわないで、ポリミックス（別売品）を使用して、よく混合してください。

■ 燃料



２サイクルエンジンオイルの種類と混合比

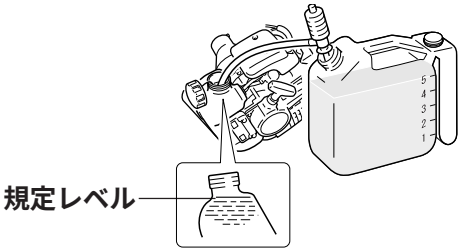
ガソリン	２サイクルエンジンオイル	
L	mL	
	５０：１	２５：１
2	４０	８０
4	８０	１６０
5	１００	２００

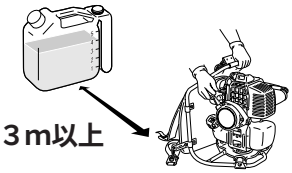
- 燃料はレギュラーガソリン**(アルコール混入燃料はゴム製部品の劣化を早めます)**と、２サイクルエンジンオイルを混合した「混合燃料」です。
- ２サイクルエンジンオイルの種類はＪＡＳＯ性能分類により「ＦＢ・ＦＣ・ＦＤ」の３種類に分類し容器に表示しています。「ＦＡ」はＪＡＳＯの旧規格で定められていました。
  やまびこ純正２サイクル専用オイルは「ＦＣ」です。
- ２サイクルエンジンオイルの種類により以下の比率で混合してください。
  ＦＣ、ＦＤ　；［５０：１］
  ＦＡ、ＦＢ　；［２５：１］

３．作業前の準備

３-２　燃料の準備（続き）

■ 燃料補給





・燃料の補給作業は、必ず風通しの良い所で行なってください。
・燃料の補給作業は、製品と補給用タンクを地面に置いて行なってください。トラックの荷台の上などでは行なわないでください。

・燃料は必ず燃料タンクの規定レベル以下に補給してください。
・燃料タンクには、外気との間に圧力差が生じています。
燃料を補給するときは、燃料タンクキャップをすこしゆるめて、圧力差を取除いてください。
・燃料タンクのキャップを開け､手動式の燃料補給ポンプなどでこぼさないように混合燃料を入れてください｡(電池式の灯油ポンプは使用しないでください)
・燃料が少しでもこぼれたら、必ず拭き取ってください｡ただし湿度が低いときは､乾いた布で拭くと静電気を帯びやすいので、水を湿らせた布で拭き取るようにしてください。

・エンジンを始動する前に、燃料を補給した場所から３m以上移動してください。

・補給用タンクは火気のない日陰に置いてください。

４．エンジンの運転

４－１　エンジンの始動

⚠ 警　告

エンジンを始動する場合は、本書の「安全にご使用いただくために」（３～８ページ）記載の「注意事項」を守って正しく操作してください。

☆「注意事項」を守らないと、死亡を含む傷害や事故を負う原因となります。

⚠ 注　意

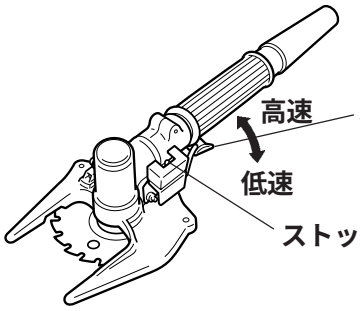
- **エンジンの始動時、スロットルレバーを低速の位置にしておいても、鋸刃が動く場合にはキャブレタを調整して使用してください。（２１ページ参照）**
- **スタータグリップを引いてから、遅れてエンジンが始動することがあるので、注意してください。**

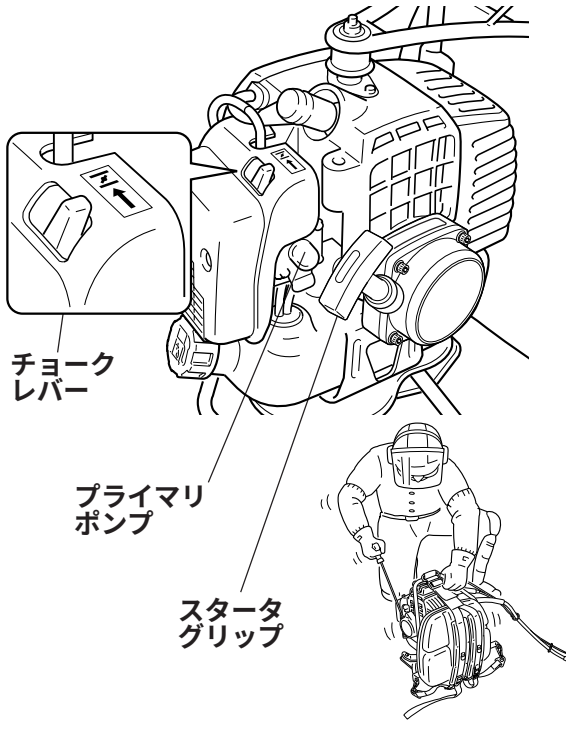
☆鋸刃が動いてケガをする恐れがあります。

重　要

- スタータグリップを引くときは、まず軽く引出し更に素早く引いてください。引きヒモの２／３以上は引出さないでください。
- スタータグリップを戻すときは、途中で手から離さないでください。
- エンジン始動操作のときに 最初の爆発音が聞こえたら、チョークレバーを戻して再度スタータグリップを引くと始動します。最初の爆発音を聞き逃さないようにしてください。

■ 冷えたエンジンの始動





（長期保管の後はスパークプラグキャップを接続してください。）

エンジンの始動には、冷えたエンジンの場合と暖まっているエンジンの場合があります。

冷えたエンジンの始動は次のようにしてください。

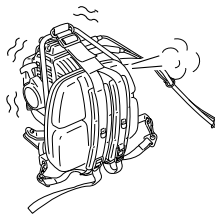
1. 鋸刃を点検してください。異常がある場合は、新品に交換してください。
2. 製品を平坦な地面に置き、鋸刃が障害物に触れていないことを確認します。
3. 燃料が漏れていないことを確認します。
4. チョークレバーを⊢⊣マークの位置にします。
5. プライマリポンプ内に燃料が吸い上がるまで、プライマリポンプを押す･離すの操作をくり返してください。（目安５～１０回）

   ※購入後初めて使用する場合または長期保管後最初に使用するときは、上記の目安回数にかかわらずプライマリポンプ内に燃料が吸い上がるまで、プライマリポンプの操作は続けてください。
6. 周囲の安全を確認して、図のように製品をしっかり押さえ、スタータグリップを数回引いてください。
7. 爆発音がし、すぐに止まった場合は、チョークレバーを⊢⊣マークの反対方向に戻して、更にスタータグリップを引き始動させてください。
8. 上記8.の操作ですぐにエンジンが始動したら、チョークレバーを徐々に⊢⊣マークの反対方向にに戻してください。
9. 低速のままでしばらく暖機運転をしてください。
10. 作業を開始するときは、スロットルレバーを高速側に動かし、作業に合わせて回転数を調節してください。

４．エンジンの運転

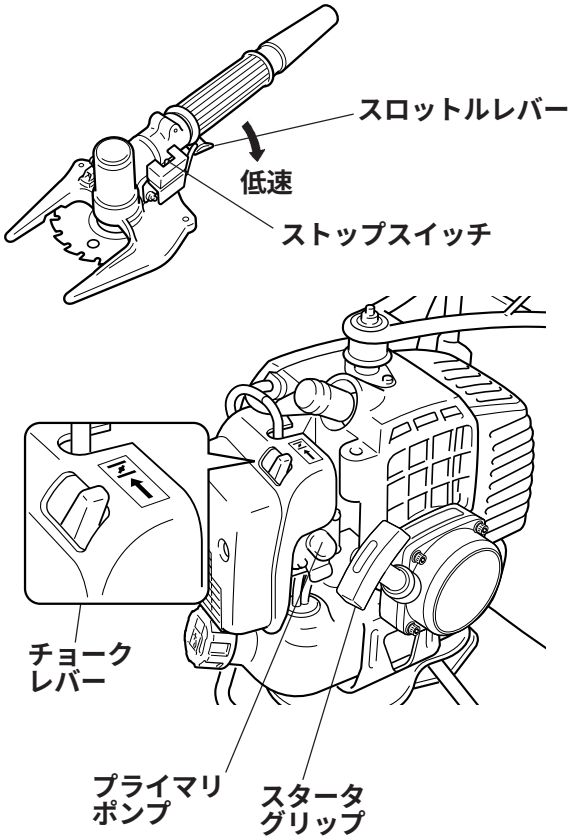
４-１　エンジンの始動（続き）

■ エンジンの暖機運転



1. エンジンが始動したら、２～３分間、アイドリング（低速運転）で暖機運転を行ないます。
2. 暖機運転は、エンジン内部の潤滑を円滑にします。特に冷えているときは、充分に行ないます。
3. 鋸刃を取付けない状態での運転は絶対に行なわないでください。

■ 暖まっているエンジンの始動

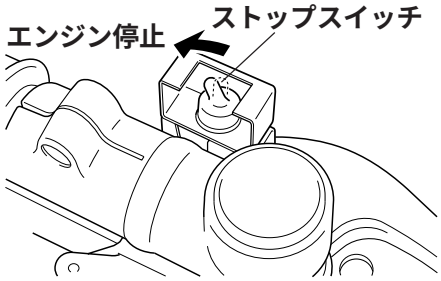


1. スロットルレバーを低速の位置にします。
2. チョークレバーが⊢マークの反対方向の位置にあることを確認してください。
3. 燃料タンクがカラでなければ、スタータグリップを引いてエンジンを始動させてください。
4. 燃料がプライマリポンプ内に見えないときは、プライマリポンプ内に燃料が吸い上がるまで、プライマリポンプを押す・離すの操作をくり返してください。（目安５～１０回）
5. 周囲の安全を確認して、図のように製品をしっかり押え、スタータグリップを引いてエンジンを始動させてください。



４-２　エンジンの停止

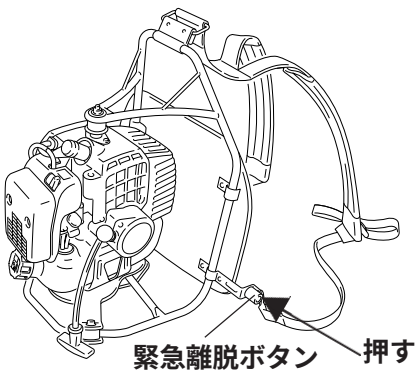
■ エンジンの停止



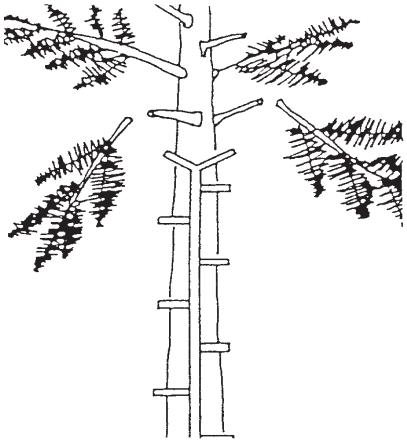
1. **スロットルレバーを低速の位置にし、エンジンをアイドリング（低速運転）状態にしてください。**
2. エンジンが停止するまでストップスイッチを手前に倒してください。放すと戻ります。
3. 緊急の場合は、直ちにストップスイッチ手前に倒してエンジンを停止してください。
4. エンジンが停止しないときは、チョークレバーを⊢マークの位置にしてください。エンジンは失速し停止します。（応急停止）

※ ストップスイッチでエンジンが停止しなかった場合は、製品を再び使用する前に、お買い求めの販売店にストップスイッチの点検と修理を依頼してください。

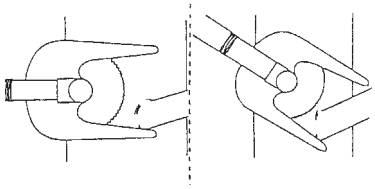
５．基本的な作業方法



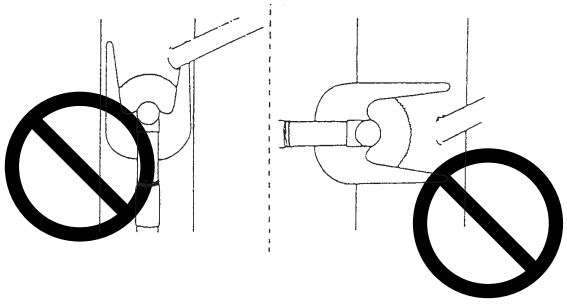
・背負バンドを着用するときに、鋸刃が地面に触れないようにし、スロットルレバーに触れてエンジン回転が上がらないようにしてください。
・緊急離脱装置が正常に作動するか、確認してください。正常に作動しない場合は、新品と交換してください。
・緊急の場合、緊急離脱ボタンを押し、製品を身体から離してください。その場合には、急速に右の背負バンドが外れます。その後製品を右肩から、落ち着いて外してください。

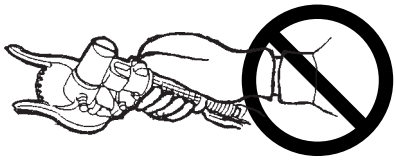


・ハシゴはしっかりと固定してください。
石のある場所はハシゴが回りやすくなりますので注意してください。
・木に登るとき、妨げになる正面の枝を一番に切断してください。
・太い枝は足場に使用すると便利ですので、枝元から２０ｃｍ位残して切断してください。
・所定の高さに到達したら、降りながら枝打ちを行なってください。その際胸の位置より下で作業を行なえば能率的です。
・安全ベルトは木の反対側での作業も安全かつ楽に行なえるので、必ずご使用ください。
・ガイド全体をしっかりと幹に押し付けてください。

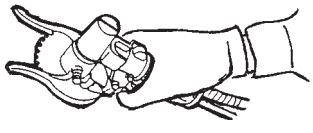


・鋸刃は右回転ですから枝に右側ガイドを添えてください。
・枝は真横か、斜め上、上方から切断してください。
・太め（２～３ｃｍ）の枝はまず枝元から２０ｃｍ位残して切断し、次に枝元を切断してください。
・下方向からの切断は行なわないてください。
枝の自重により鋸刃がロックする場合があります。
・鋸刃の中央で切断を行なわないでください。
鋸刃が横ぶれしやすく、切り口が荒れる原因となります。





・機械を保持するときは、必ずハンドルに親指を掛け、他の指とともにハンドルを囲むように握ってください。



6．点検・整備

6 - 1　点検・整備の目安

・お買い求め頂いた製品を調子よく安全にご使用いただくために､定期的に点検･整備を行なってください。
・点検・整備は、充分な広さがあり安定した場所で行なってください。
・タバコ、その他の火気は厳禁です。

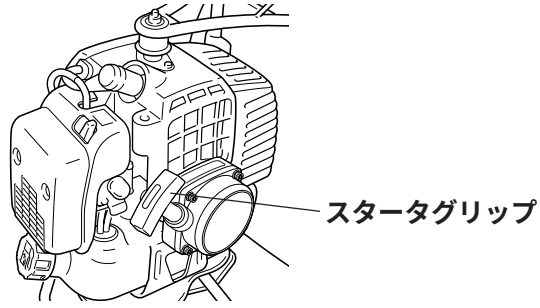
点検･整備の時期	点検･整備個所	点検･整備の内容
使用前	ネジ、ナット	損傷と締まり具合の目視点検
	マフラ	点検、清掃、増し締め
	エアフィルタ	清掃、交換（１７ページ参照）
	燃料フィルタ	清掃、交換（１８ページ参照）
	冷却風通路	清掃（１８ページ参照）
	鋸刃	損傷、切れ味、締まり具合の確認
	飛散防護カバー	損傷、取付具合の確認（２０ページ参照）
エンジン始動時	スロットルレバー	機能確認（１４ページ参照）
	ストップスイッチ	機能確認（１４ページ参照）
作業１８時間毎	フレキシブルシャフト	グリース塗布（１９ページ参照）
作業５０時間毎	ギヤケース	注油（１９ページ参照）
１ケ月毎	スパークプラグ	目視点検、必要な場合は交換（１８ページ参照）
長期保管（３０日間以上）	燃料タンク	燃料をカラにする（２３ページ参照）
	ネジ、ナット他	増し締めなど（２３ページ参照）

6 - 2　点検・整備要領

重　要

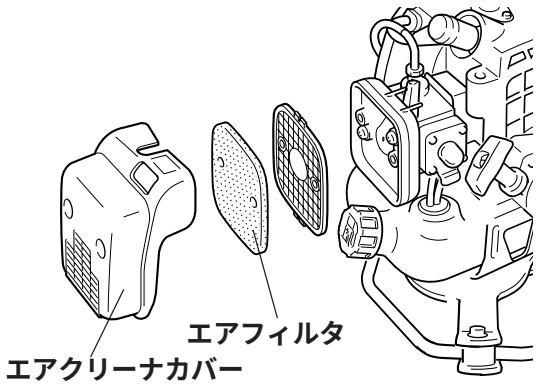
・エアフィルタが非常に汚れていたり、破損している場合は交換してください。
・エンジン冷却風の入口や、シリンダフィンにゴミなどが詰まりますと、エンジン焼き付きの原因となります。

■リコイルスタータの点検　（分解禁止）



・スタータグリップが軽く引けない場合は故障ですので､分解せずにお買い求めの販売店へご相談ください。

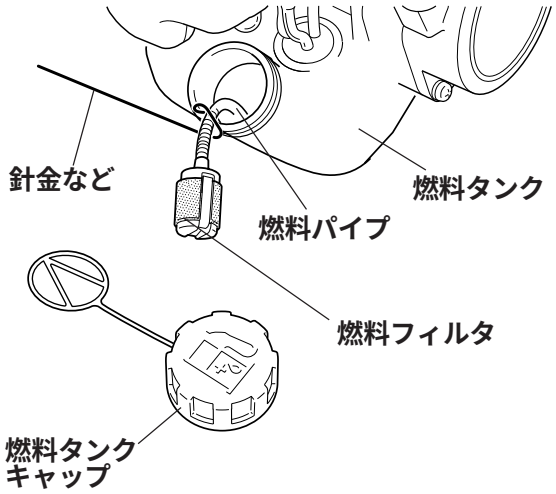
■エアフィルタの清掃



ご使用前に点検し清掃してください。
1．チョークレバーを⊢⊣マークの位置にしてから､取付ネジをゆるめてエアクリーナカバーを外してください。
2．エアフィルタを取外してください。
3．汚れをブラシで落とすか､中性洗剤で洗ってください｡洗剤を使用した場合は､充分に水洗いをし､よく乾かしてください。
4．エアフィルタを元の位置に取付けてください。
5．エアクリーナカバーを取付け､取付ネジをを締めてください。

6 - 2　点検・整備要領（続き）

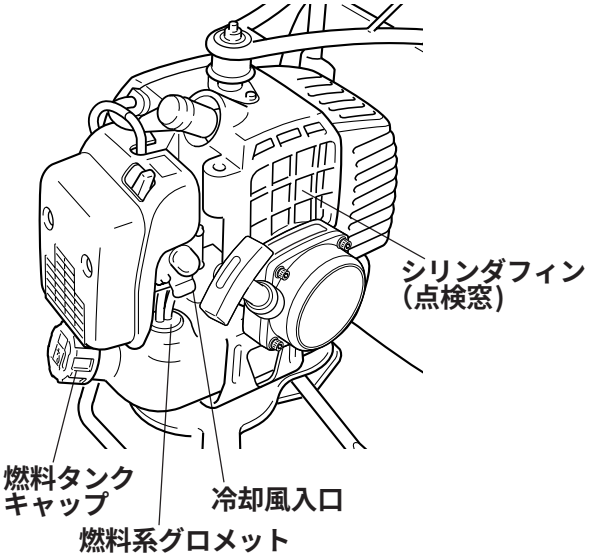
■ 燃料フィルタの清掃



ご使用前に点検し清掃してください。

1．燃料タンクキャップを外してください。
2．針金などを使用して、燃料パイプに傷をつけないように燃料フィルタを燃料タンクの給油口から取出してください。
3．燃料が劣化していたり、水分やゴミが混入している場合には、燃料を交換してください。
4．上記3．の場合にはタンク内や燃料フィルタ、燃料パイプも洗浄します。
5．燃料フィルタ部分が黒く硬くなっている場合は汚れていますので交換してください。
6．燃料フィルタが燃料タンクの底面に届いていることを確認してください。
7．点検・交換後は、燃料タンクキャップを確実に締付けてください。

■ 燃料系統の点検・冷却風入口の清掃



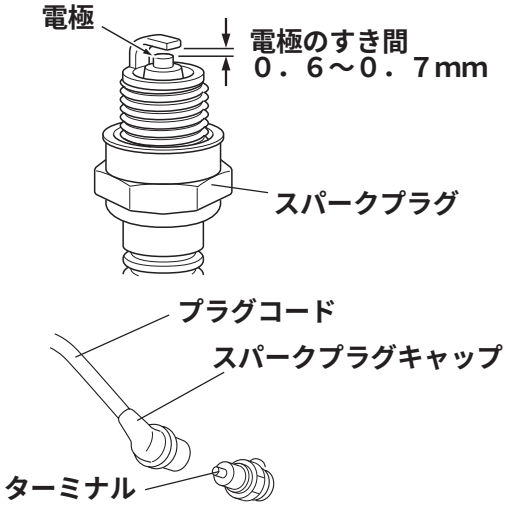
ご使用前に点検し清掃してください。

1．ご使用前に燃料を補給した後、燃料タンクキャップを確実に締付け、燃料パイプ、燃料系グロメット、燃料タンクキャップ周辺から燃料の漏れ、にじみがないことを確認してください。
2．燃料の漏れ、にじみがある場合は、火災の原因となりますので、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

ご使用前に点検し清掃してください。

1．シリンダフィンの間のゴミと汚れを取除いてください。
2．エンジンの底部と燃料タンクの間にある冷却風の入口の周りに付いた、ゴミなどを取除いてください。

■ スパークプラグ関連の点検

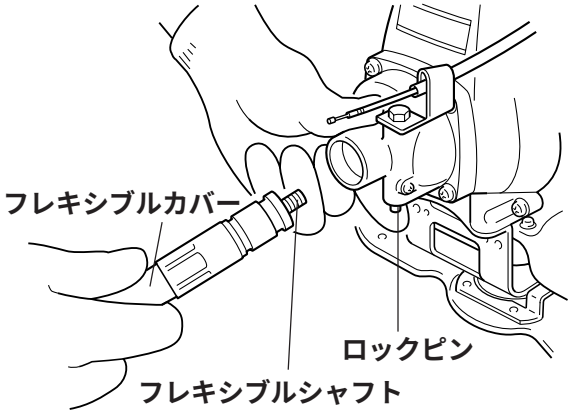


１ヶ月毎に点検してください。

1．付属のソケットレンチ（１９mm）でスパークプラグを外してください。
2．電極やターミナルが摩耗しているとき、すき間が規定寸法（０．６～０．７mm)でないとき、また電極の周囲にオイルや堆積物が付いているときは、新品と交換してください。
3．スパークプラグは、付属のソケットレンチでしっかり締付けてください。
参考：締付けトルクは１５～１７N・m
（１５０～１７０kgf・㎝)です。
4．スパークプラグキャップの接続に異常がないか、プラグコードやスパークプラグキャップにヒビ割れ、ピンホールなどがないかを点検します。

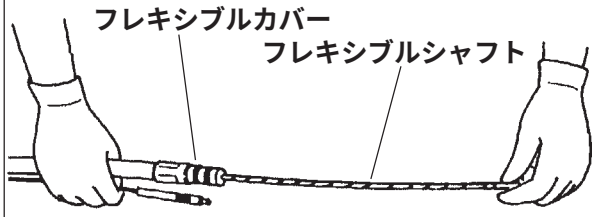
６－２　点検・整備要領（続き）

■ フレキシブルシャフトのグリース塗布



工場出荷時には、フレキシブルシャフトにグリースが塗布されています。以降は約10ｇのグリースを次の手順に従って作業１８時間毎に塗布してください。

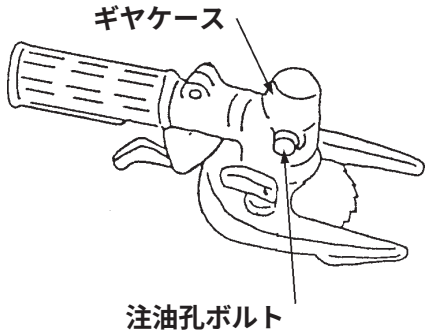
1．エンジンに付いているロックピンを一杯まで押し、フレキシブルカバーをエンジンから引き出してください。



2．フレキシブルシャフトをフレキシブルカバーから引き出してください。
3．ギヤケースグリースを約１０ｇフレキシブルシャフトに塗布してください。
4．組立ての際には、フレキシブルシャフトを分解前と逆向きに取付けてください。

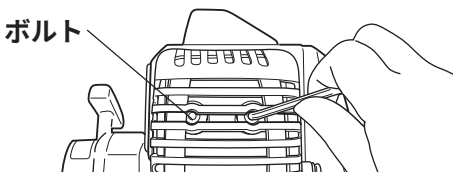
※ フレキシブルシャフトが８字状に曲がったら修理してください。切れ味の悪い鋸刃を使用するとこの様になりがちです。目立てを適正に行なってください。

■ ギヤケースの給油



作業５０時間毎に注油してください。
1．スパナ（１０mm）で注油孔ボルトを外してください。
2．ギヤケースグリースをグリースポンプで補給してください。
3．注油後は、注油孔ボルトをスパナ（１０mm）でしっかり締付けてください。

■ マフラの点検



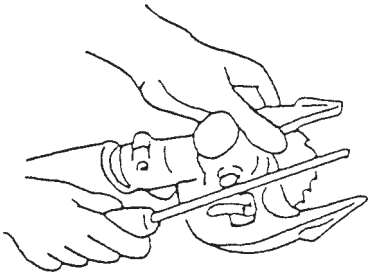
ご使用前に点検し清掃してください。
・マフラの締付けボルトにゆるみがないか確認してください。ゆるみがある場合は、付属の六角レンチで増し締めをしてください。
・マフラがカーボンなどで汚れている場合には、清掃してください。

6 - 2　点検・整備要領（続き）

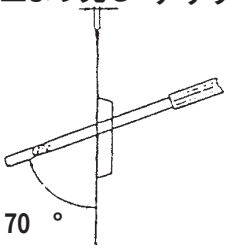
■ 鋸刃の目立て

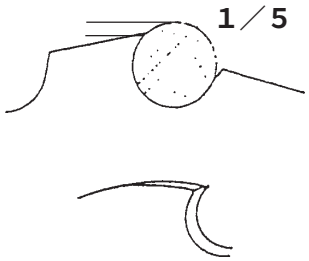
⚠ 注　意

直接鋸刃に触れないように、手袋を着用の上、作業をしてください。
☆傷害を負う恐れがあります。

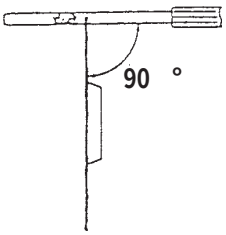


上より見る　アサリ１．６～２．０mm





横より見る





刃先に刃が付いていない

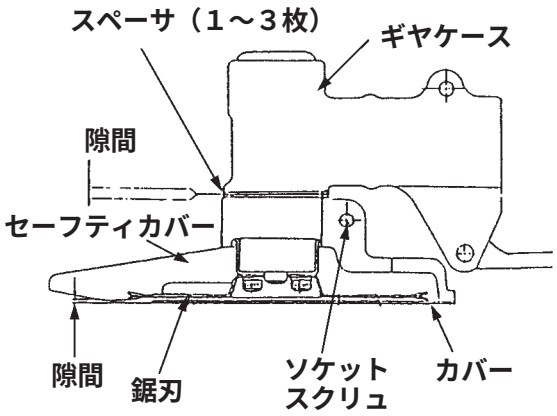
燃料補給毎に目立てをすると、いつも切れ味が良く、効率よい枝打ができます。

- アサリを１．６～２．０mm出してください。（少なすぎると樹液が付着し、鋸刃の通りが悪くなります。）
- ヤスリ径は４．８mmが最適です。
- 目立ては図のような角度で行なってください。上より見た図において、角度７０°です。６０°などにして刃先を鋭角にしすぎると、刃先の寿命が短くなり、切削音が大きくなり、切れ味が落ちます。
- 目立ては、刃先に刃が付くようにヤスリ径の1/5程度を外に出して行なってください。２～３回／１刃の割合で行なってください。

■ 飛散防護カバーの調整

⚠ 警　告

飛散防護を適正にセット、調整の上、鋸刃に充分注意してご使用ください。
☆傷害を負う原因となります。



- カバーは、３本のスクリュで取付けます。
- 鋸刃と力バーの隙間が最小となるようにセーフティカバーを上下調整してください。スペーサ部の隙間が大きい場合、またはカバーと鋸刃が干渉して調整ができない場合は、スペーサの追加、削除を行なって調整してください。（スペーサ部分の隙間は、できるだけ少なくなるように調整してください。）
- ソケットスクリュを締込み、セーフティカバーを固定してください。
- 鋸刃を手でゆっくり回転させ、鋸刃がセーフティカバーなどへ干渉していないことを確認してください。

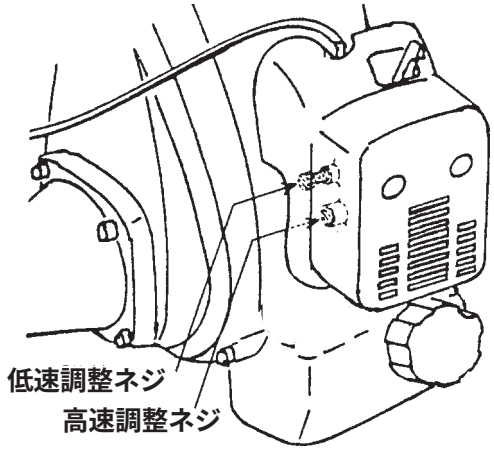
6．点検・整備

6 - 3　キャブレタの調整

■ キャブレタの調整

重　要

- 工場出荷時に、キャブレタはエンジンの性能を最も良く引出せるよう設定されていますが、次のような場合にはキャブレタの異常も考えられますので、キャブレタの調整をしてください。
  1)エンジンが始動しない。2)エンジンが停止する。3)アイドリング(低速運転)時も鋸刃が動いている。
- 低速調整ネジ、高速調整ネジは締めすぎないこと。強く締めすぎるとキャブレタを破損します。



キャブレタ調整を行なう前に、エアクリーナの清掃／交換を行ない、エンジンを数分間運転してください。

● 低速調整ネジ

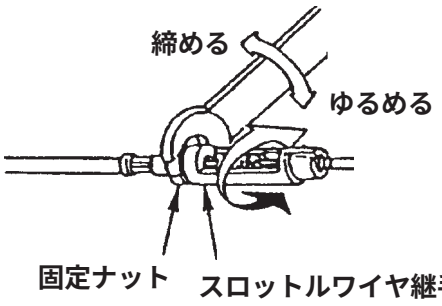
1．アイドリング（低速運転)の回転数を調整するときは、キャブレタ本体の低速調整ネジを回して調整してください。
2．低速調整ネジを右に回して鋸刃が動きはじめるところから１回転程度戻してください。

● 高速調整ネジ

1．回転不調の場合は、高速調整ネジを静かに回して調整します。
調整の標準は、高速調整ネジを全閉にしてから、反時計方向へ１ $^{3}/_{4}$回転戻しです。

※　調整してもエンジン回転不調の場合は、お買い求めの販売店へご相談ください。

■ スロットルワイヤ継手の調整



・出荷時には適切に動くように設定していますが、スロットルワイヤを動かしても正常に動かなくなったとき、またスロットルワイヤがたるんでいるときは、スロットルワイヤ継手の固定ナットをゆるめ、スロットルワイヤ継手を回してスロットルワイヤの長さを調整してください。(図４参照)

6．点検・整備

6 - 4　故障診断表

故障内容	故障診断	原因	対策
エンジンが始動しない		燃料が入っていない 燃料の吸込みすぎ 電気的障害 キャブレタ不良、内部固着 エンジン内部の故障	燃料補給 整備後に始動操作 販売店へ依頼 販売店へ依頼 販売店へ依頼
エンジンが始動しにくい また回転が変動する	オーバーフローパイプに燃料がくる	燃料の変質 キャブレタ不良	新しい燃料と交換 販売店へ依頼
	オーバーフローパイプに燃料がこない	燃料フィルタの目詰まり 燃料系統の目詰まり キャブレタ内部の固着	清掃か交換 販売店へ依頼 販売店へ依頼
	スパークプラグが汚れている、または濡れている	燃料の変質 電極の隙間が正しくない カーボンが付着している 電気的障害	交換 交換 交換 販売店へ依頼
エンジンは始動するが加速できない		エアフィルタの汚れ 燃料フィルタの汚れ 燃料通路の詰まり キャブレタ調整不良 排気口・マフラ出口が詰まっている	清掃か交換 清掃か交換 販売店へ依頼 調整 清掃
エンジンが停止する		キャブレタ調整不良 電気的障害	調整 販売店へ依頼
エンジンが停止しない		ストップスイッチ不良	応急停止後、販売店へ
アイドリング状態で鋸刃が動く		キャブレタ調整不良 クラッチバネ破損	調整 販売店へ依頼

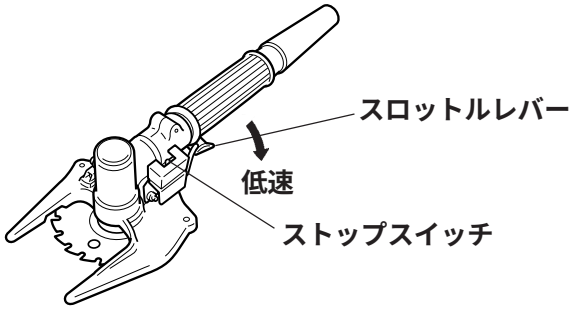
・点検・整備には専門的な知識が必要です。ご自分で点検・整備や故障対策ができない場合は、むやみに製品を分解しないで、お買い求めの販売店にご相談ください。
・表中に記載されていない故障の場合など、ご不明の点はお買い求めの販売店にご相談ください。
・補用品や消耗品は、必ず純正部品または指定品を使用してください。他社部品あるいは指定品以外の部品を使用すると、故障の原因となる場合があります。

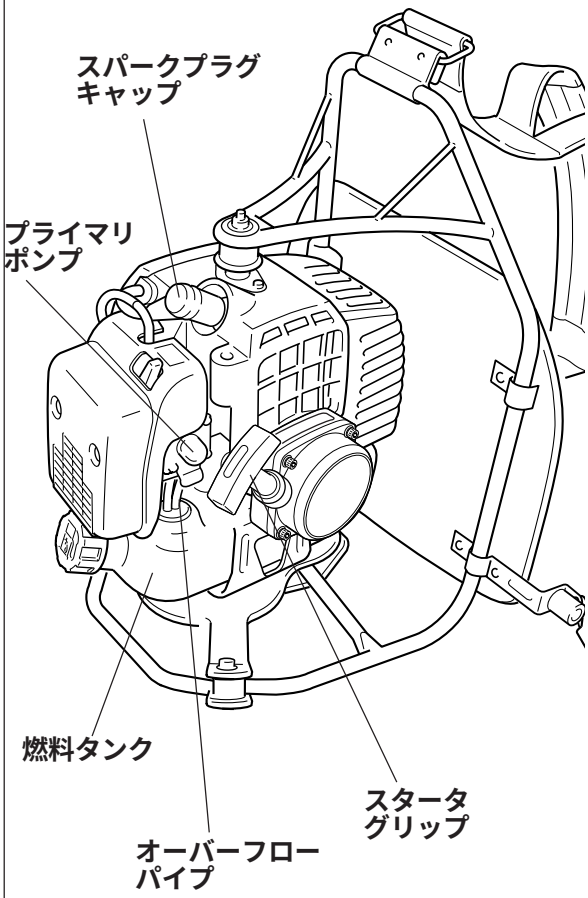
６－５　長期保管(３０日以上)

⚠ 警　告

燃料ガスが充満している密閉された場所や、裸火、火花のあるそばに保管しないこと。
☆火災の原因となります。







製品を長期間(３０日以上)にわたって保管する場合は、以下に示す保管の際の整備を必ず実施してください。

1. 燃料タンクを完全にカラにしてください。
   A. 燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。
   B. プライマリポンプを押す・離すの操作を数回くり返して、プライマリポンプの燃料を抜きます。
   C. エンジンを始動し、自然に停止するまで低速で運転してください。
2. 製品の外側に付いたグリース、オイル、ホコリ、ゴミなどをきれいに拭き取ってください。
3. 本書に定められた定期的な点検をしてください。
4. スクリュ、ナット類が締まっているか確認してください。ゆるんでいる場合は、増し締めしてください。
5. スパークプラグを外し、その取付穴から適量（１０mL程度）の、新しくきれいな２サイクルエンジンオイルをシリンダに入れてください。
   A. スパークプラグの取付穴の上にきれいな布を掛けてください。
   B. スタータグリップを２、３回引いて、エンジンオイルをシリンダ内に行き渡らせてください。
6. スパークプラグを取付けてください。
   (スパークプラグキャップは接続しないでください。)
7. 製品が充分冷えて乾いてから、エンジン部をビニール袋などに包み、子供の手の届かないホコリの少ない乾燥した場所に保管してください。

●製品や部品を廃棄するときは、販売店にご相談するか、自治体の指導に従ってください。

7．仕様

項目	単位	型 式 名	
		RMEK260A/4	***RMEK260A/5***
質量 （燃料除く）	kg	７．７	
容量 燃料タンク	L	０．６４	
鋸刃部 形式 鋸刃径 鋸刃駆動軸回転方向 ギヤケースの上から見る	mm	***K215/4*** １００	***K215/5*** １２５
		時計方向	
外形寸法 （背負部のみ） 長さ×幅×高さ	cm	３２×３６×４４	
エンジン 型式		***RMEK260/A*** 空冷２サイクル単シリンダ	
排気量	mL	２５．４	
最大出力時エンジン回転数	r/min	７，５００	
最大エンジン回転数	r/min	１０，０００	
アイドリング回転数	r/min	３，０００	
クラッチ作動開始エンジン回転数	r/min	３，７００～４，３００	
キャブレタ形式		ダイヤフラム式	
点火方式		フライホイールマグネト電子点火方式	
スパークプラグ		ＮＧＫ　ＢＰＭ７Ｙ	
始動方式		リコイルスタータ　iスタート	
動力伝達方式		自動遠心クラッチ	
燃料混合比		[レギュラーガソリン：２サイクルエンジンオイル] ＪＡＳＯ性能分類　ＦＣ、ＦＤ　　;[５０：１] ＪＡＳＯ性能分類　ＦＡ、ＦＢ　　;[２５：１]	
最大エンジン出力時燃料消費量	L/h	０．６７	

＊この仕様は予告なしに変更することがあります。

８．補用品と消耗品

部品名称	部品番号	備考
スパークプラグ	１５９０１０－１９６３０	ＢＰＭ７Ｙ
エアフィルタ	１３０３１０-５２８３０	
燃料フィルタ	１３１２０５-１９８３１	
燃料タンクキャップ	１３１００４-５５５３０	
ポリミックス	Ｂ２０２－０００１５００	５Ｌ
ポリミックス	Ｂ２０２－０００００２００	２Ｌ
５０：１ 2サイクル専用オイル	Ｂ１０５－０１０１００３	１Ｌ
５０：１ 2サイクル専用オイル	Ｂ１０５－０１００４０３	４００ｍＬ

・ご購入の際は製品をお買い求めの販売店にご用命ください。
・補用品や消耗品は必ず純正部品または指定品を使用してください。他社部品あるいは指定品以外の部品を使用すると故障の原因となる場合があります。
・作業内容と用途および仕様・規格により、本製品への適合性を確認し、お買い求めの販売店と相談の上、ご購入、ご利用願います。

索　引

あ行
アイドリング …… 15
エアクリーナカバー …… 17
エアフィルタ …… 17
オーバーフローパイプ …… 23

か行
危険区域 …… 7
規定レベル …… 5,13
ギヤケース …… 10,19
キャブレタ …… 21
緊急離脱ボタン …… 16
警告表示 …… 3
高温部 …… 8
高速調整ネジ …… 21
高電圧部 …… 8
混合燃料 …… 12

さ行
JASO 性能分類 …… 12
シンボルマーク …… 3
スタータグリップ …… 14,15,17
ストップスイッチ …… 14,15,23
スパークプラグ …… 8,18,23
スロットルレバー …… 10,14,15
スロットルワイヤ …… 11,21
静電気 …… 5,12
背負バンド …… 10

た行
暖気運転 …… 14,15
注油孔ボルト …… 19
チョークレバー …… 14,15
2 サイクルエンジンオイル …… 12,23
低速運転 …… 7
低速調整ネジ …… 21
電極のすき間 …… 18

な行
燃料 …… 5,6,12,23
燃料給油 …… 5
燃料系グロメット …… 5,18
燃料タンク …… 5,10,13,18
燃料タンクキャップ …… 5,10,18
燃料パイプ …… 5,18
燃料フィルタ …… 18
燃料補給ポンプ …… 12
鋸刃 …… 7,10,20
鋸刃ロックレバー …… 7,8,10

は行
排気ガス …… 6
発火テスト …… 8
発火・発煙 …… 6
引きヒモ …… 14
プライマリポンプ …… 14,15,23
プラグ孔 …… 8
プラグコード …… 8,18
フレキシブルシャフト …… 11,19
補給用タンク …… 12
保護具 …… 7
保証書 …… 2
ポリミックス …… 12

ま行
マフラ …… 19
マフラカバー …… 10

ら行
リコイルスタータ …… 7,17
冷却風入口 …… 17
レイノー現象 …… 6

メ　モ

株式会社やまびこ

〒198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2　Tel 0428-32-6181

やまびこ北海道株式会社
〒004-0041　北海道札幌市厚別区大谷地東 1-2-20　Tel 011-891-2249（代）

やまびこ東北株式会社
〒984-0002　宮城県仙台市若林区卸町東 5-1-50　Tel 022-288-0511（代）

やまびこ東部株式会社
〒198-0025　東京都青梅市末広町 1-7-2　Tel 0428-32-1091（代）

やまびこ中部株式会社
〒452-0031　愛知県清須市西枇杷島町宮前 1-39　Tel 052-502-4111（代）

やまびこ西部株式会社
〒701-0221　岡山県岡山市南区藤田566-159　Tel 086-296-5911（代）

やまびこ九州株式会社
〒816-0943　福岡県大野城市白木原 5-3-7　Tel 092-573-5361（代）

やまびこレンテックス株式会社
〒198-0025　東京都青梅市末広町 1-7-2　Tel 0428-32-6777（代）

ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

X750-008　67 1
X750 219-7901
1007A 0082 ES

© 2005 株式会社やまびこ　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。